

## 関連分野の知識項目 08

- システム戦略

1. [ \_\_\_\_\_ 計画 ]

組織全体の情報システムのあるべき姿を明確にする計画。

策定の際は、「情報化投資の方針及び確保すべき[ \_\_\_\_\_ 源 ]を明確にすること」や「システム構築及び運用のための標準化及び品質方針を含めたルールを明確にすること」、「個別の開発計画の優先順位及び順位付けのルールを明確にすること」などが求められる。

- ✓ 全体最適化の方針・目標

- (1) [ I \_\_\_\_\_ ス ]の方針を明確にすること。
- (2) 情報化投資及び情報化構想の決定における原則を定めること。
- (3) 情報システム全体の最適化目標を経営戦略に基づいて設定すること。
- (4) 組織体全体の情報システムのあるべき姿を明確にすること。
- (5) システム化によって生ずる組織及び業務の変更の方針を明確にすること。
- (6) [ 情 \_\_\_\_\_ 方針 ]を明確にすること。

2. 情報システム化委員会

経営トップや各部門の責任者などから構成された、情報システムに関わる活動全般をモニタリングする組織。

- ✓ 情報システム化委員会の組織体制

- (1) [ \_\_\_\_\_ 計画 ]に基づき、委員会の使命を明確にし、適切な権限及び責任を与えること。
- (2) 組織体における情報システムに関する活動全般について、モニタリングを実施し、必要に応じて是正措置を講じること。
- (3) 情報技術の動向に対応するため、技術採用指針を明確にすること。
- (4) 活動内容を組織体の長に報告すること。
- (5) 意思決定を支援するための情報を組織体の長に提供すること。

3. [ 情 \_\_\_\_\_ 部門 ]

システムの管理、IT化の推進やマネジメントなどを担う部署。

[参考]

「システム管理基準」では、「情報システム部門の使命を明確にし、適切な権限及び責任を与えること」と「組織体規模及び特性に応じて、職務の分離、専門化、権限付与、外部委託等を考慮した体制にすること」が示されている。

#### 4. 情報化投資

企業の設備投資のなかで、情報システムの構築、電子計算機・付属装置、通信機器、ソフトウェアに対する投資の総称。

##### ✓ 情報化投資計画

- (1) [ \_\_\_\_\_ 戦略 ]との整合性を考慮して策定すること。
- (2) 情報化投資計画の決定に際して、影響、効果、期間、実現性等の観点から複数の選択肢を検討すること。
- (3) 情報化投資に関する予算を適切に執行すること。
- (4) 情報化投資に関する投資効果の算出方法を明確にすること。
- (5) 情報システムの全体的な業績及び個別のプロジェクトの業績を財務的な観点から評価し、問題点に対して対策を講じること。
- (6) 投資した費用が適正に使用されたことを確認すること。

#### 5. ROI(Return On Investment)

利益額を[ \_\_\_\_\_ 額 ]で割った投資利益率。投下資本利益率とも呼ばれる。

#### 6. [ BP ]

ビジネスプロセスを根本的に考え直し、抜本的にデザインし直すことによって、企業のコスト、品質、サービス、スピードなどのパフォーマンスを劇的に改善することを目指す経営手法。

#### 7. [ BP ]

業務プロセスに分析・設計・実行・改善のマネジメントサイクルを取り入れ、業務プロセスの改善見直しや最適なプロセスへの統合を継続的に実施する経営手法。

#### 8. [ BP ]

自社の管理部門やコールセンタなど特定部門の業務プロセス全般を、業務システムの運用などと一体として外部の専門業者に委託すること。

9. [ \_\_\_\_\_ ]  
業務・システム最適化計画。各業務と情報システムを、業務体系(ビジネス)、データ体系、適用処理体系(アプリケーション)、技術体系(テクノロジー)の四つの体系で分析し、全体最適化の観点から見直すための設計・管理手法。
10. [ T - \_\_\_\_\_ モデル ]  
エンタープライズアーキテクチャにおける、情報システムの理想モデル。
11. [ A - \_\_\_\_\_ モデル ]  
組織で処理されるデータの内容、それぞれのサービスの組み立て方、使われる技術の構成までの各層を可視化した現状モデル。
12. ザックマンモデル  
エンタープライズアーキテクチャの設計、構築において、組織の複雑な構造を5W1Hで体系的に分類して整理したフレームワーク。
13. [ シ \_\_\_\_\_ タ ]  
情報システムの企画、構築、運用などの業務を一括して請け負う事業者。
14. [ A \_\_\_\_\_ ]  
汎用的なアプリケーションシステムの機能をネットワーク経由で複数の顧客に提供するサービス。
15. [ S \_\_\_\_\_ ]  
ソフトウェアの機能をサービスという部品とみなし、そのサービスを組み合わせることでシステムを構築する概念のこと。
16. SaaS([ S \_\_\_\_\_ ] as a Service)  
インターネット経由でアプリケーションソフトウェアの機能を、必要などきだけ利用者に提供するサービスのこと。
17. PaaS([ P \_\_\_\_\_ ] as a Service)  
ソフトウェアを稼働させるためのプラットフォーム、システム開発手段となるツールなどの環境を、インターネット経由で提供するサービス。

18. IaaS( [ I \_\_\_\_\_ ] as a Service)  
システムを稼働させるためのサーバ、仮想マシン、ネットワークなどの基盤となる環境を、インターネット経由で提供するサービス。HaaS (Hardware as a Service) とも呼ばれる。
19. DaaS( [ D \_\_\_\_\_ ] as a Service)  
さまざまなデバイスのデスクトップ環境を、インターネット経由で提供するサービス。
20. [ オン \_\_\_\_\_ ]  
自社運用。利用者が情報システムを、自社の設備に設置して運用する形態。
21. [ \_\_\_\_\_ ライフサイクル ]  
ソフトウェアの企画、開発、運用、保守、廃棄などに至る一連の流れ。
22. [ \_\_\_\_\_ ライフサイクル ]  
システムの企画、開発、運用、拡張、再構築などに至る一連の流れ。
23. 共通フレーム  
ソフトウェアの構想から開発、運用、保守、廃棄に至るまでのライフサイクルを通じて必要な作業項目、役割等を包括的に規定した共通の枠組み。JIS X 0160 (ISO/IEC12207)を逐次参照している。

[参考]二つの SLCP と共通フレーム

- ✓ Software Life Cycle Process:ISO/IEC 12207 JIS X0160
- ✓ System Life Cycle Process :ISO/IEC 15288 JIS X0170

24. 共通フレームの目的  
ソフトウェア開発に関係する利害関係者が、「[ \_\_\_\_\_ ]」  
ことが出来るようにすること。利害関係者同士の認識のズレによるトラブルの発生を予防し、取引における作業項目、役割分担等を明確にする。

下記の練習問題で理解を深めましょう！



- ✓ 情報セキュリティマネジメント試験合格講座 <http://rakupass.com/security/>

Copyright © [RakuPass.Com](http://RakuPass.Com) - Kanya Ishikawa All Rights Reserved.